

「シビル・ベテランズ & ボランティアズ」 2024 年度 活動報告

1. 総会の開催

2024 年度総会を 5 月 30 日に開催した。

2. 定例会の開催

概ね 2 か月ごとに定例会を開催し、活動方針や実施内容を協議しており今年度は 6 回開催した。

3. 具体的な活動および今後の活動に向けた調査、検討

今後の活動内容の拡大や充実に向け、各種団体へのヒアリングや関係機関での協議を実施するとともにイベント開催等に協力した。また、過年度から実施している活動を継続実施し、ホームページなどで土木施設の広報に努めた。

① 「土木の学校」への支援

神戸市関係者が関与する「土木の学校」の運営委員会に参画するとともに、同団体と本州四国連絡高速道路（株）が共催し、10 月 13 日(日)に開催された「第 16 回橋梁模型コンテスト」に協力した。

② 地盤工学会関西支部「若手セミナー」への講師派遣

過年度より CVV から講師を派遣している地盤工学会関西支部の「若手セミナー」の幹事団と 2024 年度の実施内容等について協議した。また、11 月 22 日開催の同セミナーで鈴木威、古川両会員がそれぞれ「ブータンの橋梁・道路事情および地盤に関する諸事情について」、「精神的ストレスへの対処について — ストレスフルの時代を生き抜く皆さんへ—」と題して講演した。

③ いきいき活動(学童保育)への支援

過年度より実施している「いきいき活動（大阪市内小学校での学童保育）」への支援に関して、窓口の財団担当者ならびに実施校の運営指導員の方々と打合せを行い、今期 3 校（大江小学校いきいき、大池小学校いきいき、晴明丘小学校いきいき）で橋の紹介や簡易な模型実験（写真-1）、割りばしを使ったトラス橋の模型づくり（写真-2）を実施した。

④ 土木遺産を活用した市民見学会の実施

2025 年 1 月は阪神・淡路大震災の発生から 30 年の節目を迎えることから、その震災遺構を巡り当時を偲ぶとともに、先進的な震災復旧構造物を見学することで、社会インフラの重要性について改めて知る機会と



写真-1 橋の紹介・簡易な模型実験



写真-2 模型づくりに懸命の児童



写真-3 全体集合写真

するため、12月14日(土)に一般市民向けの「阪神・淡路大震災30年特別見学会」を開催した(写真-3, 写真-4)。なお、本活動は土木学会教育企画・人材育成委員会成熟したシビルエンジニア活性化小委員会のNoteで「シビル・ジャーニー in CVV」として紹介いただいた。

⑤ 関西土木工学交流発表会への参加

上記発表会において、CVVの活動内容として、「選奨土木遺産の活用に関する一考察」(発表者:南荘)、「選奨土木遺産(2017年選奨)奈良市水道関連施設群の調査」(発表者:今岡)の2編を投稿・発表した(写真-5, 写真-6)。

⑥ 土木施設調査

過年度より継続実施している土木施設調査を今年度は10月30日に開催し、大阪府管理の津波・高潮ステーション・安治川水門、大阪市管理の安治川トンネル・木津川大橋・堂島大橋を調査、見学した(写真-7)。なお、調査結果はホームページで公開している。

⑦ 学生対象の震災講演会の開催

阪神・淡路大震災30周年の機に、CVV会員の震災時の体験を若い世代に伝える試みとして、関西の大学・高専生を対象とした講演会を2024年12月(神戸高専)、2025年1月(関西大学)、2025年1月(京都大学)の計3回開催した。また、次年度以降も継続実施したい。

⑧ その他

- ・学生対象の土木施設見学会開催に向けコロナ禍前に接触があった都島工業高校との協議を始めた。
- NEXCO 西日本が主催する「防災エキスパート関西」での講演会開催に向け協議した。
- ・日本建設業連合会関西支部に所属する企業の若手技術者との交流会(講演会)開催に向け協議した。
- ・会員が増加したことから定例会の進行手法、活動グループ分けの見直しなどについて協議した。



写真-4 阪神高速弁天高架橋での説明



写真-5 発表風景

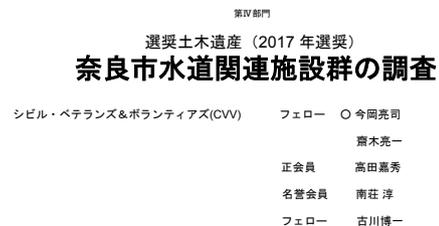


写真-6 発表スライド

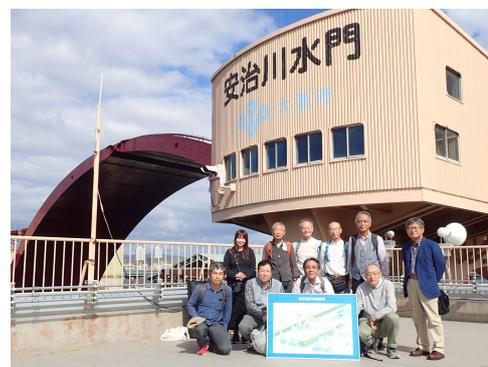


写真-7 安治川水門にて